



岩国錦帯橋空港

平成24年12月13日、地元の長年にわたる悲願であった岩国錦帯橋空港が開港しました。

現在定期便は、全日本空輸(株)が羽田-岩国間を1日5往復、那覇-岩国間を1日1往復運航しています。

空港は、岩国市の中心部にあるJR岩国駅に近く、駅から空港までの間は、航空機の発着に合わせて、連絡バス(所要12分)が運行しています。

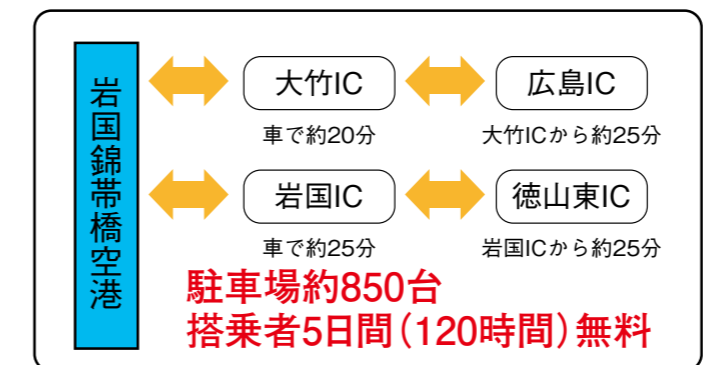
また、駐車場は約850台収容可能で、航空機利用者は5日間(120時間)無料となっています。

県は、地元と連携して空港の利用促進を図るとともに、本空港が県東部地域はもとより、県全体の活性化につながる拠点となるよう、更なる利便性の向上と空港機能の強化に取り組んでまいります。

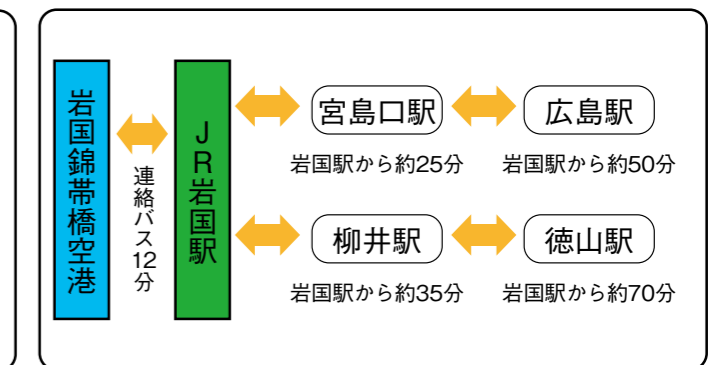
名称	岩国飛行場(愛称:岩国錦帯橋空港)
種別	共用空港
設置管理者	米軍(民航:国土交通省)
標高	3m
面積	115.2ha
滑走路	2,440m×60m



車でのアクセス



電車でのアクセス



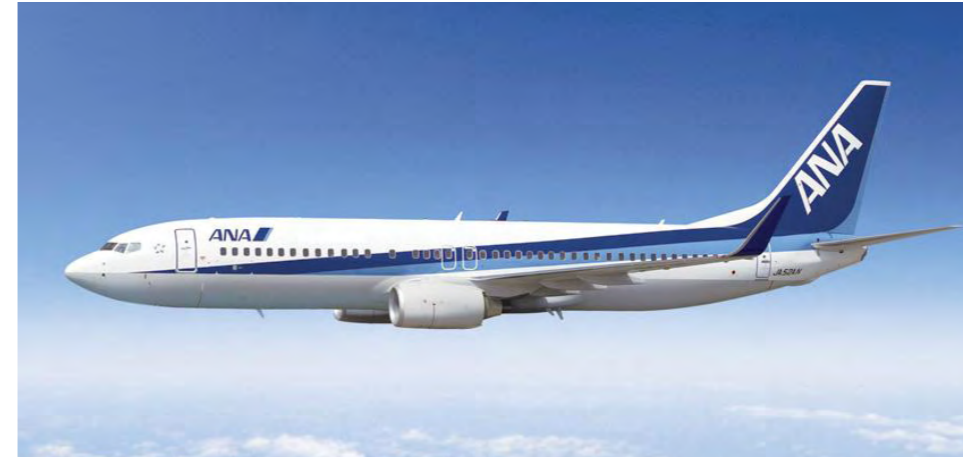
空港の沿革

- 昭和26年
国際飛行場に指定される（岩国飛行場と呼称）
- 昭和27年4月
日本航空(株)が岩国空港就航式
- 昭和27年5月
日本航空(株)が国内航空幹線の中継寄港
- 昭和27年6月
羽田とともにわが国で2か所の国際空港
- 昭和29年3月
極東航空(株)（現全日本空輸(株)と合併）が大阪～岩国 定期便就航開始
- 昭和29年11月
日本航空(株)が岩国便を休止
- 昭和36年
広島空港共用開始
- 昭和36年5月
(株)日本エアシステム（旧東亜国内航空）岩国飛行場一時使用
- 昭和39年12月
民間航空路線の変更以後、平成24年12月まで定期便は就航していない

- 平成6年3月
県が国の空港問題の専門家などで構成する山口県東部空港問題専門委員会を設置
- 平成8年7月
岩国市が7万人の署名を県知事に提出
- 平成12年5月
岩国基地民間空港早期再開期成同盟会設置（岩国広域圏1市7町1村、柳井広域圏1市7町の首長及び議長が会員）
- 平成15年2月
日米合同委員会において、その下部機関（施設調整部会）で岩国基地の軍民共用化について日米の関係者による具体的な協議・検討が開始されることが決まる
- 平成16年5月
岩国基地民間空港再開事業推進協議会設立（県・市）
- 平成17年10月
日米合同委員会で、1日4往復の民間航空機の運航について合意
- 平成18年5月
再編の実施のための日米ロードマップで「将来の民間航空施設の一部が岩国飛行場に設けられる」旨明記
- 平成19年5月
防衛施設庁から空母艦載機の岩国飛行場への移転等に伴い必要となる施設整備について、米側で作成された包括的な施設整備のマスタープランが提示され、この中で現滑走路の北端先地域の基地内及び隣接の国有地が、民航ターミナル地域として示される
- 平成20年10月
岩国基地民間空港再開事業推進協議会（県・市）が空港整備基本計画を策定
- 平成21年2月16日
関係省庁申合せにおいて「岩国飛行場における民間空港の再開について、民航施設の整備は国土交通省が主体となって実施することとし、これに必要な土地（施設及び区域）の共同使用等に伴う米側との調整については防衛省が主体となって実施することとする」という方針が出される
- 平成22年2月17日
全日本空輸(株)が「岩国～羽田」間4往復就航を正式表明
- 平成24年12月13日
岩国錦帯橋空港開港（東京便全日4往復運航）
- 平成28年3月
沖縄便運航開始・東京便全日5往復運航



主な就航機種



ボーイング737-800

全長／39.5m
全高／12.5m
全幅／35.8m
重量／71t
座席数／166席／167席
巡航速度／830km/h



エアバスA320

全長／37.6m
全高／11.8m
全幅／34.1m
重量／67t
座席数／166席
巡航速度／840km/h

民間空港再開後の利用実績

